



第一部：記念式典

半田商工会議所創立130周年記念式典開催



11月24日(金)午後2時30分より、半田市福祉文化会館(雁宿ホール)にて、大村秀章愛知県知事、久世孝宏半田市長、県下21商工会議所や知多地区商工会などのご来賓や当所役員・議員・会員および関係団体など約230名にご参加いただき、創立130周年記念式典を開催した。

第一部の式典では、会頭式辞の後、中部経済産業局産業部長、愛知県知事、半田市長、日本商工会議所総務部長ら来賓代表者からの祝辞をいただいた。

また、これまでの当所130年のあゆみ、歴代会頭、半田市を紹介する映像を投影した後、松石会頭が壇上に立ち、130周年を迎えた今、当所が今後進むべく指針を、身振り手振りを交えながら声高らかに宣言した。(次頁参照)



第二部：記念プログラム

第二部の記念プログラムでは一般市民約750名も集い、研修医で2021年第18回ショパン国際ピアノコンクール本大会二次審査に進出したピアニストである沢田蒼梧氏のピアノリサイタル、並びにあいち小児保健医療総合センター名誉センター長である前田正信氏をモデレーターとして両氏によるトークセッションを開催した。

沢田氏が幼い頃から両氏は面識があり、ピアニストと医師の“二刀流”として活躍する沢田氏の経歴や功績を紹介。あいち県民ウィークに伴う休校で会場に集まった多くの小中学生らに夢や希望を与えることとなった。

第三部の祝賀会では、来賓、当所役員・議員ら180名が集結。成岩南組の南龍会によるお囃子の演奏で歓迎し、知多酒で乾杯した。会場には、カプトビール、あいち知多牛、知多豚などもメニューに並び、参加者らは半田の特産品の味を堪能し、当所創立130周年を盛大に祝うことができた。



第三部：祝賀会

会頭宣言

~ともに生き ともに栄える~



130年前、半田商工会議所丸の出港はバンドの奏でる音楽と共に華やかで賑やかな見送りの人々の風景が思い浮かぶ順風満帆な船出であったことでしょう。

その時、半田の街には百貨が輻輳し、人々の出入り繁く未来永劫栄える街の船出を彷彿させる光景であったことでしょう。街には老若男女が闊歩し、和菓子屋も居酒屋も下駄屋も八百屋も魚屋も繁盛していた光景が目につかびます。半田の街は、醸造蔵や繊維工場がそこかしこにあり、港には多くの船が入り出していました。国鉄

時代の半田駅前には人と荷で溢れ、名鉄知多半田駅前にアーケードができた頃は、知多半島各地から多くの人々が半田の街で買い物を楽しみました。

暮らしや経済が安定した高度経済成長期を謳歌した時代の前には、戦争が招いた混乱や金融破綻を経験し、その後はオイルショック、バブル崩壊、リーマンショック、数々の自然災害、そして直近では世界中を混乱に貶めたコロナショックなど数々の困苦を先人たちは知恵と行動力で乗り越えてきました。それはこの地域の情熱の気風が経済人の魂の中にあつたからです。

2020年からの3年間、コロナ禍の間、私たちは船のマストを補修し、穴の開いた船倉を塞ぎ、知恵を振り絞り、次の船出への備えを怠ることなく耐えてまいりました。それを可能としたのは、先人たちから受け継いだ情熱の魂と行動力であり、しなやかに回復する力、すなわち「Resilience」をもっていたからなのです。創立130年の節目、半田商工会議所丸は会員企業の皆様、本日ここにお越し賜りました関係諸団体の皆様、そして市民の皆様と共に先人たちが幾度も乗り越えてこられた大海原への航海、新たな時代に向けて再び出航する時となりました。航海の目的地は経済活動が生み出す豊かな社会です。「Resilience」のローガンを高々と掲げ、次の時代に向けて出港しましょう。

半田市では2025年春に現在の半田病院が移転し新たに知多半島総合医療センターが開設します。もともと丘陵地帯だった場所に病院を基軸とした周辺地域の開発も新たな雇用創出の場として望まれます。更に2027年にはJR半田駅を含む連続立体交差事業が完了する予定です。130年をともに歩んだJRと名鉄の二つの鉄道網は、私たちに大きな恩恵をもたらしてくれました。しかし、同時に両鉄道は半田市の東西交通の分断をもたらしていました。願わくは、市の東側に住む方々が遅滞なく新たな医療センターへ通うことができるように、また三河地域から中部国際空港へのアクセスの利便性向上のためにも更なる東西交通の円滑化に向けた次の事業が望まれるところであり、それは市民の長年の悲願でもあります。久世半田市長の肝いりで始まった中心市街地活性化事業が市民、事業者など様々なステークホルダーの知恵と行動を結集しながらスタートし、大いなる期待に胸がときめきます。

また衣浦大橋と知多半島道路阿久比インターチェンジの中間部に位置する半田市石塚地区は開発検討地区として位置づけられ新たな工業団地として次世代に価値をもたらす企業の進出誘致が望まれます。産業活動に必要な原材料を主に受け入れる衣浦港は、愛知県の産業を支えてまいりました。この港の整備促進は、半田市と愛知県の未来にとって大きな力となることでしょう。豊かな土地が生み出す半田市の一次産業は様々な農作物を生み畜産も盛んに行われています。多くの雇用を支え、素晴らしい技術を持つ二次産業が集積する半田市商都として栄える半田市の三次産業、そして今、産業の垣根を越えた六次産業化に向けた機運が形作られてきました。実績と大きな可能性をもつ半田市はこれからも知多半島の中心都市として半島全体と愛知県の産業の更なる発展を目指し近隣市町の皆様と「ともに生き ともに栄える」そんな街でなければなりません。

半田商工会議所は、会員の皆様の想いに耳を傾け、部会、委員会、青年部、女性会、そして役員、職員と共に更に活動的な商工会議所へと進化し変革をします。行政、議会、教育界、金融機関の皆様との更なる連携と協働により次世代に繋ぐ豊かな地域を創る、それこそが半田商工会議所の使命です。

若い方々がここに住み、ここで学び、ここで働く半田。高齢者が生き生きと安心して暮らせる半田。半田市のこれからの価値創造にチャレンジする半田商工会議所の活動に挑んでまいり決意を胸に会頭宣言と致します。

